

カローリング生みの親・田中耕一さん逝く 全国から海外へ普及の名古屋発ニュースポーツ



大会で挨拶する田中耕一さん

氷上スポーツのカーリングを室内でも楽しめるように改良した「カローリング」の生みの親である中部ベアリング(株)の元代表取締役・田中耕一さん（名古屋市中川区西日置）が、さる7月8日に自宅で不整脈のため亡くなった。88歳。社業のベアリング技術を生かして開発した新しいスポーツがカローリングだ。田中さんは全国の教育委員会などにその魅力を紹介するなど普及に尽力。今や国内の有資格者約2000人、愛好家は30万人といい、アメリカや韓国など海外にも広がるスポーツに育て上げた。

カローリングは3人一組で競うチーム競技。「ジェットローラー」という車輪の付いた円盤を床の上で滑らせ、ポイントゾーンに向けて相手チームの選手と交互に6回ずつ投げ合う。相手のジェットローラーにぶつけ、ポイントゾーンからはじき出すこともでき、得点ゾーンに自チームのジェットローラーをより多く置くことで得点を争う。

地域のスポーツセンターや体育館、公民館などの施設の床面を使うため、天候に左右されず競技できるのが利点。子どもから高齢者まで年齢や、性別、体力に関係なく気軽に楽しめ、障がい者スポーツの一つとしても愛好者は全国に広がり、韓国、中国、アメリカやオーストラリアでも大会が行われている。

生前の田中さんから聞いた話によれば、冬季の人気スポーツであるカーリングをヒントに氷上でなく体育館などの室内でもできるようにすれば「誰でも親しめるスポーツになるはず」と改良に改良を重ねて1993年までに完成させた。

田中さんは社業のいとまを利用しては、全国の教育委員会に手紙でカローリングの楽しみ方を伝え、好意的な反応のあった所には道具一式を持って指導に行ったり講師を派遣、ニュー・スポーツの普及を働きかけた。当初は「ベアリング技術を利用した会社の利益のためではないか」といった批判もあったというが、実際に競



カローリングを楽しむプレイヤー

技を体験してその楽しさに共感する。

愛好家が増え続け、93年10月には名古屋市内で第1回目の全国大会開催にこぎつけた。

競技会も名古屋市内の地域の大会から徐々にほぼ全国に広がり、この間、田中さんは、地元・名古屋に日本カローリング協会を創設して普及活動に本腰を入れ、現在では東北から九州まで県や市のカローリング協会も18府県にできたほか、地域の愛好会も各地に生まれ、用具の設置場所は数百か所にのぼる。全国大会は今年も9月に名古屋市内で予定されている。

田中 耕一（たなか こういち）1935（昭和10）年4月名古屋出身。父親の名古屋ベアリング商會を継ぎ63年に株式会社設立。鉄製ではなく樹脂製ベアリングに取り組み、特許や実用新案など数多く取得するアイデアマンだった。75年から2期名古屋市議を務めた。同社の商品は複写機、プリンター、家電、自動車など高い汎用性を誇る。機械の中で回転する「軸」を支えるベアリングは「機械産業のコメ」と呼ばれるほど各種機械に使われている。本社は名古屋市中川区西日置2の20の13。田中良親代表取締役。